

# 放射線技術部だより

白十字病院 放射線技術部 広報誌



本号の記事：

STAT画像とは -1ページ

当院の取り組み -2ページ

## STAT画像とは？

「生命予後に関わる緊急性の高い疾患の所見がある画像」

医療用略語「STAT」の語源は、ラテン語の「statim：直ちに」が由来とされています。

「STAT画像」＝「直ちに医師の確認を要する画像」

本来、撮影した画像の読影は放射線科医が行います。緊急性が高い場合は、早急に医師へ報告することで早期治療に繋げることが可能になります。この対応の早さが、患者さんの生死や予後（QOL）の改善に結びつきます。脳内の出血や消化管の出血などは患者さんの生命予後に大きく関わるので、そのような所見がみられる画像はSTAT画像になります。

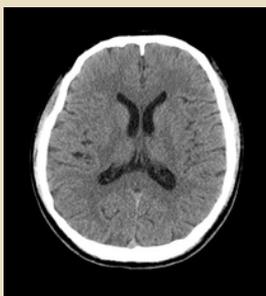
## なぜ、放射線技師なのか？

「診療放射線技師は  
見えない病気を写し出す病気の第一発見者」

患者さんが救急搬送され、一番最初に画像を目にするのは我々診療放射線技師です。搬送された理由や医師のオーダー内容などを把握し、そこから考えられる疾患を考慮した上で撮影を行っています。診断を下す医師が求める最適な画像を提供することが我々の責任です。

救急搬送 → 検査 → 画像確認 → 転送 → 医師の診断

正常の脳



検査結果



高吸収(白い)域を発見！⇒脳出血が疑われる!!

当院ではSTAT画像発見後  
すぐに所見を医師に報告します



## 当院の取り組み

STAT画像の運用は、施設毎に異なります。当院ではSTAT画像所見報告ガイドラインに沿った運用方法を構築しています。

### 放射線科医と診療放射線技師とで STAT画像に関するカンファレンスの実施

STAT画像症例の読影ポイントなどを部門内で共有することで技師の読影力向上に努めています。放射線科医から直接アドバイスをもらうことが出来るため、読影知識やどんな撮影を求めているかなどの情報交換もその場で行うことが出来ます。



#### カンファレンスの様子

左の写真の回は、1年目技師が「気胸」という病気を調べ上げ、先輩技師や放射線科医に向けて発表しています。10人以上の前で緊張していましたが、発表後は盛大な拍手をもらっていました。

### STAT画像所見報告表・所見報告のレポートの作成

STAT画像所見報告のファイルを作成し、放射線技術部内で情報を共有できるようにしています。また、夜間など放射線科医が不在の時に所見報告レポートも作成しており、放射線科医が出勤した際に診療放射線技師の所見報告レポートを閲覧できるようにしています。

患者さんのためにも、救急医療現場に従事する者として、日進月歩で励んでおります。

